

ベッドサイドモニタ 機能仕様書

仕様内容
ベッドサイドモニタは以下の要件を満たすこと。
ディスプレイ
本体部、ディスプレイ部、生体情報入力部から構成され、一体型モニタであること。
ディスプレイ部は10インチ相当の液晶ディスプレイ(解像度：1280×800ピクセル以上)であること。
1画面に最大3トレース以上の表示が可能であること。
計測値のみを拡大して表示する機能を有すること。
病室を暗くしたときや患者の睡眠時などに、画面の明るさやアラーム音量などをあらかじめ設定できる夜間モード機能を有すること。
使用する環境に合わせて計測用モジュールを追加することにより、計測パラメータを増やすことができること。
計測用ケーブルのコネクタはリスクマネジメントの観点から、コネクタ外れを防止するためのロック機構が設けられていること。
ディスプレイ部はフラットディスプレイを採用し、段差や凹凸が無く清拭性に優れること。
計測値表示には、視認性に優れ、誰にでも見やすいユニバーサルフォントを採用していること。
ディスプレイ部は静電容量式を採用していること。
操作
タッチパネル操作により、容易に操作が可能であること。
ユーザーキーを4つ設定することができること。
アラーム
各計測値に関して、アラーム閾値の設定が可能であること。
アラームは、重要度に応じて5段階で設定・通知する機能を有すること。
パラメータ毎の閾値アラーム設定画面においては、最適な設定を行うため、閾値の目安となるアラームアシスト画面の表示が可能であること。
アラーム設定画面において、特定の管理者のみが操作可能にするため、パスワードロック機能を有すること。
アラーム設定に関しては、メーカーデフォルト以外にユーザーデフォルトの登録が可能であること。
計測値枠内にアラームOFFの表示およびアラーム設定の閾値を数値およびグラフとして表示可能であること。
アラーム音は消音できない様に、最小設定値を設定できること。
アラーム発生時には、画面表示や音だけでなくディスプレイに付属したLEDによる通知が行えること。
アラームの重症度を変更する機能を有すること。
アラーム閾値を2重化し、アラームの聞き逃しを防ぐ機能を有する事。
測定項目
心電図、呼吸、経皮的動脈血酸素飽和度、非観血血圧、体温(オプション)、呼気/吸気CO2濃度(オプション)を同時に測定可能であること。
心電図計測
計測範囲は成人0.12~300 bpm、新生児0.30~300 bpmの範囲で測定が可能であること。
除細動装置に対する保護回路を有すること。
呼吸計測
計測範囲は0.4~150 Bpmの範囲で測定が可能であること。
インピーダンスでの計測が可能であること。
動脈血酸素飽和度計測
計測範囲は1~100%の範囲で測定が可能であること。
測定方式は、体動、低灌流時にも対応できる前額部センサを使用可能であること。
ディスポプローブの使用が可能であること。
動脈血酸素飽和度の変化を同期音の音程にて把握できること。
非観血血圧計測
計測範囲は0~300mmHgの範囲で測定が可能であること。
手動/定時にて計測が可能であること。
測定の終了を音で知らせる機能を有すること。
昇圧測定方式を搭載されていること。

スコアリング機能
RRS（Rapid Response System）の起動基準にも使用できるEWS（Early Warning Score）等のスコアリング機能を有すること。
データ保存
トレンドグラフは最大336時間分の保存が可能であること。
リストトレンドは最大336時間分の保存が可能であること。
リコール波形は最大300件保存可能であること。
長時間波形は最大336時間保存可能であること。（オプション）
退床した患者データを最大256件、最大336時間保存可能であること。
アラームが発生した際の履歴をリストとして1599件分保存可能であること。
記録
レコーダユニットが内蔵されていること。（オプション）
手動記録の他に定時記録が可能なこと。
トレンド記録、リスト記録、リコール記録、長時間波形記録といったグラフィック記録が可能なこと。
セントラルモニタとの通信
A型の小電力医用テレメータ方式で、セントラルモニタへ送信可能であること。
送信モジュールが内蔵され、別途取り付け必要のないこと。
送信チャネルは内部メニューにて、任意に変更可能であること。
セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ間では、無線双方向通信が可能であること。
その他
搬送を考慮して連続して最大2.5時間の電源供給が可能なバッテリーを有すること。
搬送を考慮して重量は約1.9 K gと軽量設計であること。
入床時の患者名入力には、名前の入力に特化した変換システムが使用できること。
入床操作忘れのリスクマネジメントとして、入床操作前からモニタリングしていたデータも保存できること。
専用取付台を用意できること。
NFC通信機能が搭載されていること
接続した人工呼吸器でアラームが発生すると、呼吸器アラームを画面に表示できること。